

である。第三は一切の農業資金は全部小作農によつて提供され、收穫物は豊凶其他諸條件を考慮して一定の比例によつて分配されるものである。

(二) 定額物納制 この制度は最も多い小作型態であつて、農業資金が全部小作農の負擔である外は地代が收穫の豊凶如何に關らず、豫め相互間の契約によつて取決められるのである。その分配は四對六、五對五、六對四等が普通である、尙定額物納制には「硬租」と「軟租」の二種があつて、前者は豊凶の如何に拘らず一切減額しないものであり、後者は凶作の際には協議により事情を酌量して地代を減少し得るもので一般に軟租が多いと聞く。

(三) 錢租制 これは大都市——北京、天津等の附近、土地會社等の集團地主、商品作物區域等に廣く行はれてゐる、然しこれは單に物納制が形を變へたものと見てよく本質上何等の差異がない。

右の様な小作型態の外に支那では一種の農業労働者たる「雇農」といふものがある、この雇農は全農民數の約二〇%を占めると推定されてゐるが、之等の雇農を直ちに資本主義的農業労働者と見ることは出来ない、支那に於ては一般に零細農、時に貧農さへもが雇農を使用するのである。

以上の外に支那の各地方には更に一層封建的性質の濃厚な生産關係が残つてゐることは支那農業の特質として注目される、例へば察哈爾、綏遠等の遊牧地帯には今尙奴隸制度が存在してゐるなどである。

生産手段 支那農業は一千年以上に亙つて封建的生産様式のままに停滯してゐる爲、多くの労働要具のうち、耕畜が最も重要な地位を占めてゐる、然るにこの耕畜さへ支那農村には極めて缺乏して居り、全國平均一戸一頭足らずで然も分配が又極めて不均衡である、従つて耕畜の賃借は貧農間の一般的傾向であり、更に大部分の貧農は全く耕畜を使用せず専ら原始的な農具による手耕的耕作を行つてゐる、また一般使用農具も、極く少數の富農經營の一部農具を除いては、依然として一千年來の簡單な原

始的農具を使用してゐる。

次に耕耘深度は一般に浅く普通一〇程程度が精々である、肥料また人糞（土糞）を主とし汚物、泥土、木灰等で化学肥料は例外的施用に止まる、斯くの如く農業技術の原始性に制約されて單位面積の收量は非常に低い。

北支農民の生活

水、旱、風虫害等々の災害と兵禍、匪禍に悩まされ通しの北支農民は數千年來しいたげられた生活の連續を餘儀なくされてゐる、それに人口の増加は勢ひ耕地の狹隘となり、地力減耗は單位面積の生産を減じ、打ちつゞく悪政、虐政は農民を窮乏激化へと驅り立てた。一ヶ年の金錢收入五十圓程度の農家が極めて多い一事を以てしてもその生活内容は推して知るべきである。

一體北支那の農民は降雨を豫算に入れてゐない、故に雨具の用意がなく、雨降れば屋内に漫然としてその霽れるのを待つ、だから一度雨が降れば何等の生産もなさないのだが、支那農民は、仕事せざれば喰ふべからず、と雨や風で仕事を休む日は三度の

食を二度に減らすさうである、働く時は飽食し、働かざる時は減食するとあれば、これ程合理化された生活態度は餘りあるまい、然し彼等の生活合理化に感心する前に、斯く迄しなければならぬ家計の内容に注意を要するであらう。土を材料とし自家勞力で造つた家屋、晴衣一枚、平常衣一枚の衣服、典型的な簡易生活を北支農民に於て觀ることが出来る。

旅客列車の停車を待ち兼ねたやうに農村の子供達が破れた竹籠などを窓口に高く差上げて、大人進上、大人進上と自國を旅する外國人に惠みを乞ふ憐れな姿は、彼等の動物的生活内容を覗ふに足る風景である、病氣に罹つても醫藥を用ひるでもなく、子供に學校教育を授けるでもなく、およそ原始的なものである、然し茲で考慮を要するは農民の指導方法である、即ち若し産業的な施設と進歩を伴はず、只頭腦のみ發達せしめるときは、人生と社會に對する不満を覺え、そこに思想的混亂を招來し、赤魔跳梁の隙を與へることにならぬとも限らぬ、従つて北支農民の指導には慎重を期せねば

ならぬ譯である。

今次事變に當り皇軍進撃の跡に困苦と闘ひつゝ活躍するわが宣撫班員の話聞くに醫療の施設に對する農民の要望は驚くべきものがあり、我方の配給する醫藥の著効に讚歎の聲を放ち、その惠みに與からんと熾烈な競争をさへ演ずるとのことである。このわが國の宣撫工作を契機に世界文化に彼等が目ざめた時こそ、最も恐るべき秋で、誤りなき指導方針の確立こそ慎重のうちにも急を要する問題であらう。

北支農村開發の基調

全人口に對する八割五分の農民を包容する北支に在つては農村復興が北支に於ける大きな問題であり、これが解決が焦眉の急務たるに何人も異論はあるまい。そして治水と大植林と大湖水の築設等の基本的施設は素より、農産種子の改良廣義な耕作法の研究など、北支農村の復興と振興策として既に識者の間に論ぜられてゐる、が問題はその實施方法である、百の名案良策も机上の計畫だけでは、農村は何等の進展を見ないことは謂ふ迄もない。兎に角北支農村はいま皇國日本の人類愛に燃ゆる暖き手の差のべられるのを待つてゐるのである。外敵を防ぐに萬里の長城を築き、年貢米を運ぶ爲に蜿蜒たる大運河を掘つた以外、三千年來爲政者は農作物を滅茶々にする天の仕

業に何等の防禦的工夫を凝さなかつた。哀れな北支農民は小舟一艘を持たずして彼等の生命は維持出來ないのだ。一度豪雨に見舞はれると田圃は忽ちにして泥海と化し、舟によつて辛うじて交通するのである、彼地を旅する者の目に映ずる畑の真中の楊柳の蔭に田舟の繫がれてゐる風景に誰か驚かない者があらうか、治水問題の急務と同時に大植林の敢行また早急に乗出さねばならず、復興工作の基本的解決に當路者の一層の努力精進を望まざるを得ない、次に日本の持つ技術と知識を提さげて廣義の農業研究機關の整備も亦等閑視すべきでなく、寧ろこれを中心にして復興の作戦を樹つべきではあるまいか。

尙現在わが國の朝野を舉げて北支開發の重點を埋藏資源に置いてゐるやうである、固よりこれは國民經濟の發展を助長するのみならず日支の共存共榮と日滿支ブロックの強化に絶對的なもので、そして此れが遂行は、北支農村の餘剩勞力の利用と併せて農民の生活と没交渉ではあり得ない、然しこれによつて一般的に大多數の農民生活を

向上せしむる力は少いであらう、故に北支民衆の生活向上の爲には、所謂國防産業と併行的に民生産業たる農業振興に熱心であらねばならない。斯くて農民の生活が向上すれば茲に良質安價のわが商品を求めるから、わが國の輸出はそれだけ増加し國內産業は勃興し、こゝにも共存共榮の實が擧る譯である。

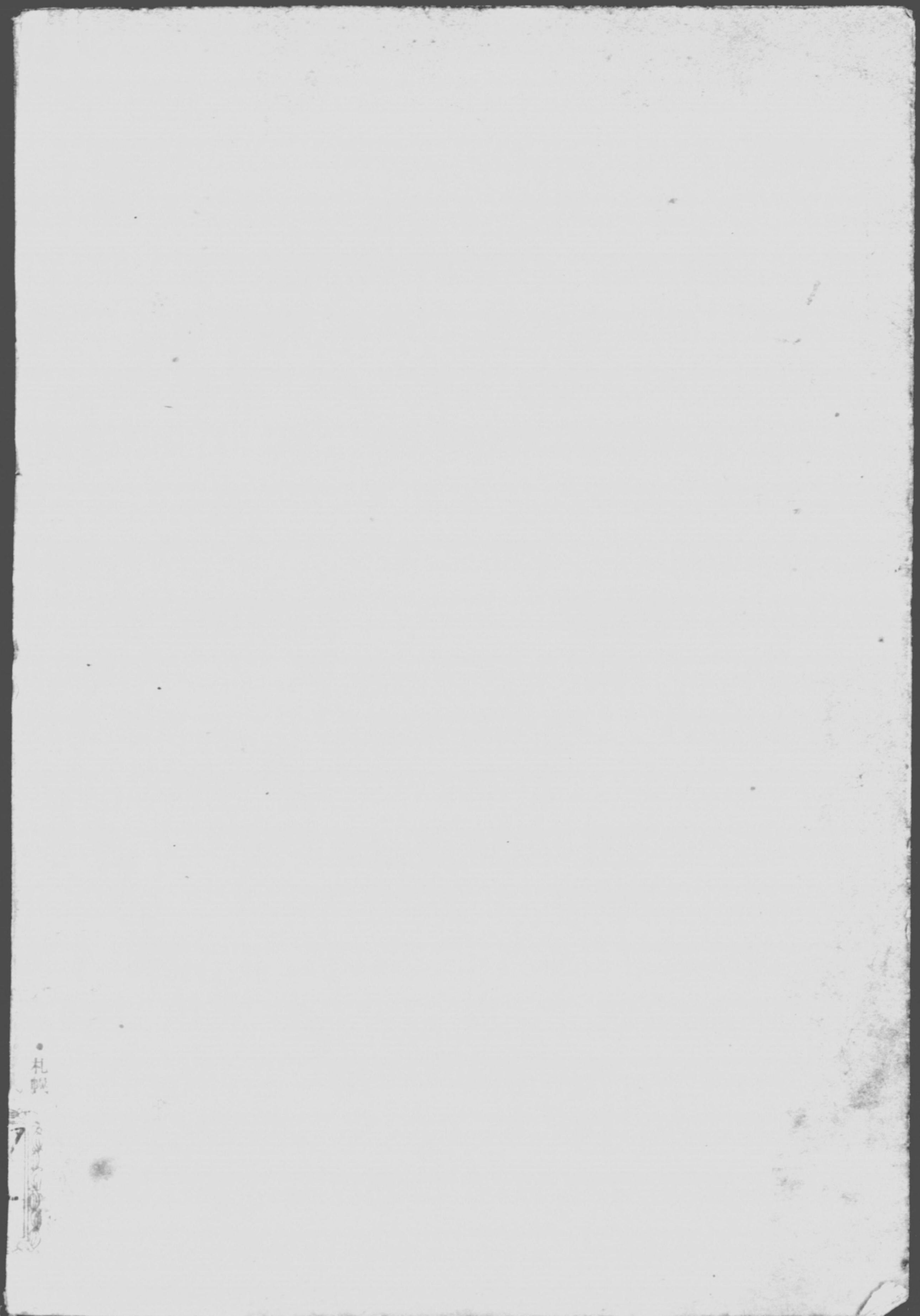
北支農業と北海道の關係

農業上から見た北支と北海道は滿洲と北海道程の密接な關係はない、元來北支には日本の農業人口を移動せしめる餘地は殆んどなく、従つて府縣の農業界から見ても直接の關係は滿洲國程厚くはあるまい。然し北支の農業を向上せしむるには、科學日本の農業技術と知識を移植しなければならぬことは言を俟たない。そしてこの役割は大陸農業の經營に充分の自信ある北海道農業界の奮起が望ましい、素より北海道の農業が北滿に於けるが如く北支に於て役立つ部面は少いであらうが、北海道で鍛へた農業人の指導的役割は當然期待さるべきではあるまいか、滿洲農業と同様に北支農業の研究を北海道農人に切望してやまない。

387
76

昭和十三年十一月十日印刷
昭和十三年十一月廿日發行

發行所	北海道農會
著者	小森健治
著作	札幌市北四條西七丁目三番地
編輯人	鹽野喜作
印刷所	札幌市北四條西六丁目一番地 鹽野其水堂札幌工場 電話二四七二番



• 札
製